

立ちあがる

Vol.9



熱気にあふれた
「十文字探究DAY 2025」開催！

大盛況に終わった
十文字祭・桐華祭

「令和6年度 課外活動・
社会活動等における表彰式」を開催

卒業生の肖像
20歳で挑戦！
大学3年生での起業に成功
城宝 薫さん (株式会社テーブルクロス代表取締役CEO)

研究の玉手箱
和菓子の継承を目指すおだんご先生の心意気
芝崎本実先生 (十文字学園女子大学 人間生活学部食物栄養学科・講師)

PLUS ONE特別公開講座 **女性活躍社会の実現に向けて**
湖池屋の流儀
佐藤 章氏 (株式会社湖池屋 代表取締役社長)

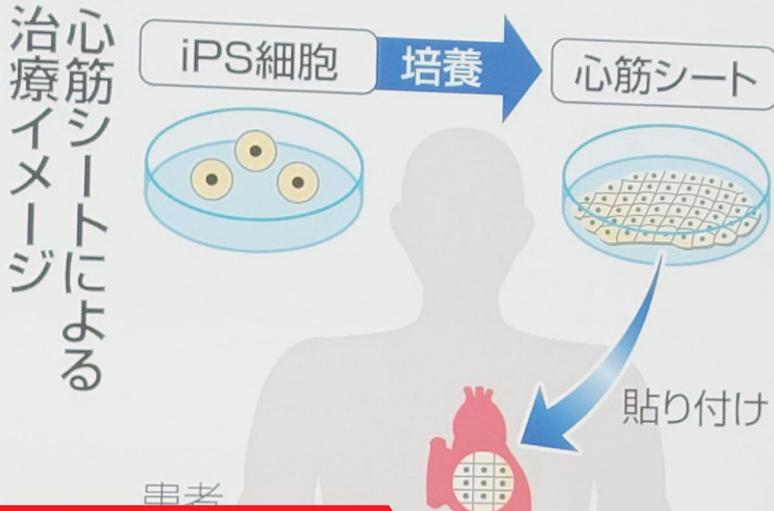
JUMONJI TOPICS

園庭のうた
2024 幼稚園行事・イベント

土井善晴氏が副学長に就任



グランプリを獲得した「線状皮膚萎縮症の治療とこれから」を発表する高2のS.Mさん



熱気にあふれた

「十文字探究DAY 2025」開催！

テーマ

道なき道を進め！ 新たな価値観を切り開こう

2025（令和7）年1月18日、十文字中学・高等学校で第2回「十文字探究DAY 2025」が、午前と午後の2部構成で開催されました。この催しは「探究学習プログラム」を通して、学んだ成果を、1年（中1）〜5年（高2）の全生徒がそれぞれ発表する場です。学年を超えて学びを共有し、認め合い、刺激し合う場であり、多くの保護者や関係者も参加して大いに盛り上がりました。

学年ごとに異なる
テーマに挑戦！

十文字探究DAYの2025年のテーマは「道なき道を進め！ 新たな価値観を切り開こう」でした。このテーマには、常識にとらわれない自由な発想を持ち、未来をよりよい方向に切り開いていこうという決意が込められています。また、探究DAYの開催にあたっては、「発信を楽しむ」「意見を楽しむ」「空間を楽しむ」という3つの心得が掲げられ、午前中は、教室や体育館を使った様々な形式の発表が行われました。

学校全体がイベント会場に！

1年生は、日本経済新聞の「私の履歴書」に登場した人物の中からロールモデルを選び、その人物の生き方や大切にしていることを探究しました。

2年生は、実在する企業のインタビューシップを教室で体験し、企業から出された課題を自分たちで解釈して新たな企画を考案する「コーポレートアクセス」に取り組みました。

3年生は、生徒個人が自ら社会課題を見つけ、それを解決するための企画を考える「ソーシャルチェンジ」に取り組み、その成果を展示形式で発表しました。

4年生のリベラルアーツ・特選コースは、日常生活で感じる「あつたらいいな」の思いをカタチにして新商品を作りました。



教室での発表は、プロジェクターや小道具などを使ったり、芝居仕立てやテレビ番組仕立てにしたりするなど、様々な工夫が凝らされていました（1年生と2年生）。

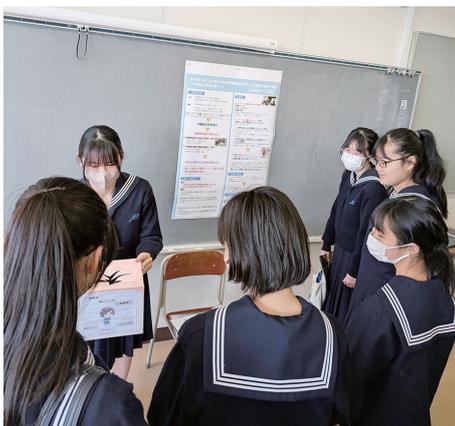


惜しくもグランプリファイナルとして選ばれなかったグループも、優れた内容のチームは準ファイナリストとして選定され、堂々としたプレゼンをしました。



自分の発表に全力を尽くすと同時に、他の生徒の発表にも熱心に聞き入る姿が印象的でした（3年生）。

開発する「スモールスタート」にチームで挑戦し、それぞれの成果を教室で発表しました。
5年生のリベラルアーツ・特選コースは、自分自身で問いを立てて調査を行う「マイテーマ探究」に取り組みま



投票箱を用意し、聴衆参加型の発表も！（4・5年生）



体育館では、ポスターセッション形式の発表が行われました（5年生）。

した。この探究が自分の進路へと結びついている生徒もいます。
また、4・5年生の自己発信コースは、高校の3年間をかけて「マイプロジェクト探究」に取り組んでいます。その経過発表を、本館2階の教室で行いました。この「マイプロジェクト探究」は6年次まで継続され、最終的に

は、一人ひとりが世の中に新しい価値を生み出し、チェンジメーカーとして発信することを目標としています。
生徒たちは、自分の発表時間以外、それぞれ興味をもった探究テーマを自由に見て回り、発表者に質問することもできます。また、「よかった」と思った発表には、発表者のしおりに「GOOD JOB」シールを貼って交流しました。

高く評価された「探究学習プログラム」の成果

午後は講堂で、各学年の代表者12組による「グランプリファイナル」が行われました。

ここでは内容もさることながら、多くの聴衆の前で自分が探究した内容をわかりやすく伝える資料作成の技術や話術も必要とされます。緊張しながらもみな堂々と発表していました。

企業や大学に所属する審査員の方々からは「昨年比べて数段力がついていて」「すぐに商品化できそうなアイデアがあった」「将来の仕事につながるような活動になっている」といった高い評価が相次ぎました。そして審査の結果、グランプリ、準グランプリ、ほか各賞が決められ、後日発表されました。
グランプリに輝いたS・Mさん（2ページの上写真）は、次のように感想を語ってくれました。

「探究活動の魅力は、自分が知っていたことや考えていたことは異なる視点からの知識や知見を得ることで、ものごとを俯瞰的・総合的に考えられるようになることだと思います。」

多くの面白いテーマが揃っている中で、まさか自分がグランプリに選ばれているとは思っていませんでした。驚くと同時にとても嬉しく思いました。大学に進学してからもさらに研究を進めていきたいと考えています」

今後も十文字中学・高等学校の「探究学習プログラム」に期待します。

線状皮膚萎縮症の治療とこれから

（イノベーター賞・S.Mさん・5年）

線状皮膚萎縮症とは皮膚が引っ張られることで皮膚に線状の筋ができる疾患のこと。これは思春期にも起こり、多くの人が治療したいと望んでいるが、治療法の開発は進んでいない。細胞医薬を用いた治療法の進展と今後の課題について探った。

成長期の女性アスリートにおける相対的エネルギー不足の解消に向けて

（インフルエンサー賞・M.Nさん・5年）

成長期のアスリートは運動量が多いにも関わらず、それに見合ったエネルギーを摂取できていない「相対的エネルギー不足」が起きている。この解消に向けた自己啓発ツールとしてオリジナルレシピ本の構成内容から、実際に調理につなげる方法までを考案した。

アレルギー低減卵の研究を社会実装につなげるには

（リサーチャー賞・A.Eさん・5年）

ゲノム編集によって卵アレルギーをもつ人も食べられる卵が開発されたニュースから着想し、ゲノム編集とはどのような技術なのかを調べ、社会がどのようなイメージをもっているかも調査した。ゲノム編集の技術のポジティブな考えが広がる方法について探究した。

十文字祭

紅蘭紫菊 ~千の色鮮やかに~

2024（令和6）年9月21・22日、十文字中学・高等学校の文化祭「十文字祭」が開催されました。第65回を迎えた今回のテーマは「紅蘭紫菊〜千の色鮮やかに〜」。紅蘭紫菊には「それぞれが独自の美しい花を咲かせるように、人と比べることなく、個性を磨こう」という意味があります。そのテーマどおり、生徒たちは、十文字祭を成功させるために一人ひとりが主体的に考え準備を重ねてきました。

中学2年生の理科ではクラスごとに「世界でたった一つの周期表」の作成に取り組み、個性あふれる作品が訪れた方々の目を惹きつけていました。またJRC部では日頃からルワンダとの交流を行っており、現地の子どもたちが描いた絵を展示すると共に、それを印刷したグッズ販売を行う企画で盛り上がりました。



参加団体の最優秀賞を獲得した5年梅組の「ベイまるックスのAmazingライド」！



教室が撮影スポットに！ 装飾も細部までこだわりました。



ショップでの支払いはPayPayもOK！とても便利になりました。



JRC部「ルワンダの子どもたちと、絵を通して交流！」



中学2年生・理科「世界でたった一つの周期表」の制作



クラスや学年を超えて交流し、皆で楽しみました。

十文字祭

新座発

桐華祭

十文字学園女子大学

Power of Smile ~笑顔で広がる希望の力~



2日間で5801人が来場!
 たくさんの笑顔があふれた、大成功の学園祭!

2024（令和6）年10月26・27日には、十文字学園女子大学の学園祭「第58回桐華祭」が開催されました。今回のテーマは「Power of Smile」笑顔で広がる希望の力」でした。笑顔でいることは、自分自身がプラス思考になったり、周りの人も明るい気持ちにさせたりと日々の活力となる特別な力を持っています。今回のテーマカラーは虹色。虹色は2024年の「にじ」にもかけており、参加者一人ひとりが個性（色）を活かして輝き、笑顔で多くの方々の輪を広げていきたい、という学生たちの思いが込められていました。

桐華祭当日、野外ステージで吹奏楽部や和太鼓部の演奏などが行われたほか、飲食コーナーには20を超える団体が出店し、数多くの来場者にも太い楽しんでもいただきました。



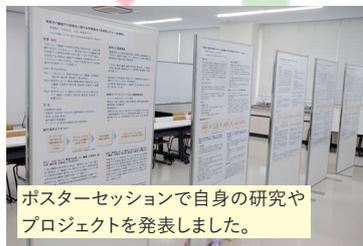
大盛り上がりのステージイベント!
 学生たちの熱いパフォーマンスが観客を魅了しました。



学びの集大成を披露! 学生が研究成果をわかりやすく説明し、来場者も興味津々。



学生によるお点前披露! 茶道部の心尽くしのお茶で、来場者もほっと一息。



ポスターセッションで自身の研究やプロジェクトを発表しました。



多くの来場者で賑わいました。



「おれの本気(マジ)うどん」には大行列もできました。

大盛況に終わった文化祭、学園祭

「令和6年度 課外活動・社会活動等における表彰式」を開催



志村二三夫学長（中央右）、鈴木康弘カレッジスポーツセンター副センター長（中央左）と表彰された学生たち



表彰を受けた長谷川さん（写真=中央）

「やんごとなきトマトThe curry」トマトをたっぷり使った温めなくてもおいしいスパイスカレーで非常食にも利用できる。

「地場産の規格外トマトを使用したカレー」が、社会活動における表彰に！

表彰された団体・個人の中で、特に注目されたのが、小林三智子研究室の長谷川結生さんら学生3名による「地場産の

十文字学園女子大学では、学生の活躍に対して年度ごとに表彰を行います。「課外活動における表彰」は、競技会や展覧会等で活躍した学生を、「社会活動における表彰」は、地域や企業等と連携し、社会的に高い評価を得た学生を表彰します。令和6年度の表彰式は、2025年1月8日に開催され、課外活動で1団体と個人4名、社会活動で7団体に、学長から表彰状と記念品等が授与されました。

◆ 課外活動における表彰

被表彰者・団体	主な表彰事由
原川美涼	健康栄養学科3年 第28回全日本ラート競技選手権大会(女子)8位、他
石井結衣	児童教育学科2年 POINT&K.O.第38回全日本空手道選手権大会の一般女子重量級で優勝(4連覇)、他
大江望礼	幼児教育学科3年 第53回秋季東都女子大学剣道大会で敢闘賞
サッカー部	42名 第32回全日本大学女子サッカー選手権大会 ベスト8、他
久保友希	児童教育学科1年 けん玉ワールドカップに出場。16歳～19歳(女性部門)7位

◆ 社会活動における表彰

被表彰者・団体	主な表彰事由
十文字ビールプロジェクト	22名 オリジナルクラフトビールの開発・販売
羽田ゼミ	7名 地域魅力化につなげる人(ひと)-TSUNAGI 教育プロジェクト
ふるさと支援隊(ときがわ町)	19名 Z世代が好む柑橘製品の開発
小林三智子研究室	3名 規格外トマトを活用し、「やんごとなきトマトThe curry」として開発
日本語学ゼミ	12名 日本語学の学びを活かしたワークショップや教育コンテンツの開発
プラスちゃんくらぶ	30名 地域連携活動の一環として、近隣市を中心に多くのイベントに参加し、ワークショップを企画・運営
SAITAMA子育て応援フェスタ幼児教育学科有志	8名 「SAITAMA子育て応援フェスタ」でブースを企画・運営し、本学の魅力を発信

規格外トマトを使用したカレー」(のちに「やんごとなきトマトThe Curry」と命名)の開発でした。長谷川さんは次のように語ります。「ゼミ活動を始める際に、規格外トマトは味には問題がないのに廃棄されてしまっていることを知り、そのトマトを使用した商品開発を行うことにしました。そこで、近年自然災害の増加により、非常食の需要も増加していることから、温めなくてもおいしいレトルトのトマトカレーの開発に着手しました。開発にあたり、レトルト加工前後のトマトピューレとカレーのリコピン量を測定し、内外の多くの先行研究を学び、リコピンについてたくさんの方の知見を得まし

た。また、多くの種類がある中でどのスパイスを使用すべきか、どのくらいの量を入れるべきなのか、スパイスについても検討を重ね、そこから私たちの答えを導き出しました」努力は実ります。2024年7月には、NTT東日本さいたま新常盤ビルの社員食堂で提供し、「おいしい」と言ってもらい、大きな喜びを感じることができたと振り返りつつ、言葉を続けます。「今回、こうして私たちの活動が表彰されたのも、ご指導くださった先生方やこの活動に携わってくださった方々のおかげです。私も、この経験を通して誰かのために全力で応えられる人になりたいと強く思うようになりました」



20歳で挑戦！ 大学3年生での起業に成功

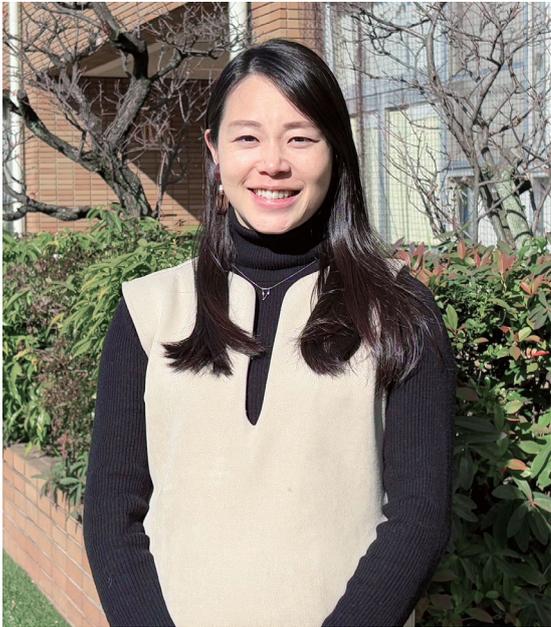
城宝さんが株式会社テーブルクロスを設立したのは2014年6月、立教大学の3年生、20歳のときのことでした。インターネット上に、国内の飲食店の利用者がそこから予約できるアプリを開発し、運営するというものです。

テーブルクロスのシステムが特徴的だったのは、利用者が予約すると、それに応じた学校給

食がNPOを通じて開発途上国の子どもたちに提供される仕組みになっていたことです。予約するだけで社会貢献ができるというわけです。

➤ **目指すは「社会への貢献」と「利益の創造」の同時実現**

そもそも城宝さんが起業に興味を持ったのは、会社を営んでいた祖父の影響だったといえます。



1993年生まれ。十文字中学・高等学校に進み、中3で生徒会長、高1で副生徒会長、高2で生徒会長を務めた。2012年に立教大学経済学部入学、在学中の2014年に株式会社テーブルクロスを起業し、女子大生社長となった。2019年に結婚、現在は3人の子どもを育てながら、会社のさらなる成長を目指して、事業のグローバル化を推し進めている。

城宝 薫さん 株式会社テーブルクロス 代表取締役CEO

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）



城宝さんと、テーブルクロスを支えるビジネスパートナーたち。現在、50人ほどの社員の8割は外国人。そのため、社内での公用語は英語である。

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）

「祖父は、『会社を運営するうえで大切なのは、人のためにとんなことができるかを考えることが大切だ』と言っていました。そんな話を聞いていたせいか、私は、小学3年生の頃には『実業家になろう』と思っていましたし、十文字中学校に入学した当時から、『自分は、誰に對し、どんな貢献ができるんだろうか』などと考えるようになっていました」（城宝さん）

研究の 玉手箱

和菓子 の継承を目指す

おだんご先生の心意気



のです」(芝崎先生)

そして女子栄養大学の大学院修士課程を修了した芝崎先生は、さらに帝京平成大学大学院の博士課程へと進みます。

そんな芝崎先生に教員への道を示してくれたのが、十文字学園女子大学の恩師からの「助手にならないか」という言葉でした。

この恩師の言葉をきっかけに芝崎先生は、教員への第一歩を踏み出しました。

そして4年間ほど十文字学園女子大学で助手を務めた後、帝京平成大学の教員を経て、2022年には人間生活学部食物栄養学科の講師として、十文字学園女子大学に戻ってきたのです。

今、芝崎先生は管理栄養士を目指す学生たちを指導・育成すると同時に、ゼミにおいては、学内に留まることなく、多くのプロジェクトやボランティアを通して、様々な経験をさせることを目指しています。芝崎先生は、学生たちに次のようにエールを送っています。

「管理栄養士になって社会に貢献してほしいことは言うまでもありませんが、十文字の卒業生として、夢や希望を持って社会に出てもらいたいですね。そのためにも、学生時代に経験をたくさん積んで、自分にはこんなことができるんだ!と自ら発信する力を身につけてほしいと思います」(芝崎先生)

そんな積極的な生き方は、芝崎先生自身もがたどってきた道でもあるのです。



しほ さき もと み 十文字学園女子大学 人間生活学部食物栄養学科・講師

埼玉県出身。香川調理製菓専門学校を卒業後、菓子店に就職。和菓子づくりの技術を習得、菓子の商品開発などにも従事。その後、女子栄養大学大学院修士課程、帝京平成大学大学院博士課程を修了し、帝京平成大学健康メディカル学部で助教を務めた後、2022年より現職。和菓子の研究をしながら、教員として管理栄養士の育成に携わっている。

これまで訪ねた和菓子屋や
団子屋は全国600軒以上

「マツコの知らない世界」(TBS系)や「チコちゃんに叱られる」(NHK)などのテレビ番組に出演して、「おだんご先生」のニックネームで親しまれているのが、本学人間生活学部食物栄養学科の芝崎本実先生です。

子どもの頃から和菓子が大好きだったという芝崎先生は、全国津々浦々の和菓

子屋さんや団子屋さんを600軒以上も訪ね歩いてきたそうですが、もともと和菓子の職人さんでした。

十文字学園女子大学の恩師が
示してくれた教員への道

香川調理製菓専門学校(東京都豊島区駒込)で和菓子の奥深さと美しさに触れた芝崎先生は、和菓子店に就職して和菓子づくりの技術を習得。やがて茶席用和菓子の注文制作やオリジナルの和菓子制



著書に『おだんご先生のおいしい! づくり和菓子』(春夏秋冬の4巻。童心社)、『究極のあんこを炊く』(女子栄養大学出版部)など多数。Webサイト「おだんご日和」(odango.jp)でも情報を発信中。

女性活躍社会の実現に向けて

2024(令和6)年10月30日、十文字中学・高等学校の講堂で「PLUS ONE特別公開講座」が開催されました。講師としてお招きしたのは、株式会社湖池屋の佐藤章代表取締役社長です。



第4回講座テーマ

湖池屋の流儀

「ゼロからイチを生み出す」

組織と人の育て方 講師：佐藤章代表取締役社長



【佐藤章氏プロフィール】1959年東京都生まれ。1982年、早稲田大学法学部を卒業後、キリンビールに入社。1997年にキリンビバレッジ商品企画部に出向。2014年にキリンビバレッジ社長に就任。2016年にフレンテ(現・湖池屋)執行役員兼日清食品ホールディングス執行役員に転じ、同年9月に湖池屋代表取締役社長に就任。

「私が入った当時、湖池屋は創業時の社名から離れてフレンテという社名になっていました。私は、それはおかしなと思いました。そもそも湖池屋という社名は、創業者の小池和夫氏が自身の出身地である長野県の諏訪湖のように大きな企業に育ってほしいという思いを込めて、小池の『小』の字を諏訪湖の『湖』に変えて社名としたものでした。まずはその原点に立ち戻ることが必要でした。そこで

新しいロゴマークも、六角形の中に『湖』をデザインしたものにしました。また市場調査の結果を分析して付加価値戦略に転換し、高級路線を模索し『湖池屋プライドポテト』の開発を進めました。ライバルの真似ではなく、自分たちしかできない独自性で差別化することにしたのです」(佐藤社長)

ポテトチップスを日本で初めて量産し、普及させた湖池屋ですが、2012(平成24)年に赤字に転落するなど、非常に厳しい時期がありました。その湖池屋ブランドを2016(平成28)年に復活させ、見事にV字回復させた人物こそ佐藤社長です。湖池屋をいかにして復活させていったのか……佐藤社長は、講座でその原点から語ってくださいました。



「湖池屋プライドポテトをつくってくれたのは若い社員たちです。常識を乗り越えてチャレンジするだけの野望や好奇心を持っている人、また人間味が溢れている人たちが活躍しています。大切なのは、こうした若い人たちに裁量権を与えて挑戦させる企業風土があるかどうかです。イノベーションはひとりでは絶対できません。なるべく遠いところにいる人であればあるほど知と知が噛み合ってイノベーションが生まれます。あとは粘り強さ、諦めないこと。湖池屋では今、ゴールを決めたらそこに向かってどんな回り道してもいいからたどり着こうというのをルールにして企業風土改革をしています。その結果、男女にかかわらず、30代前半で次長になる人や、20代で課長になる人が次々に出てきています」(佐藤社長)



感想を寄せた高1の生徒2人と佐藤社長

「湖池屋の歴史を知るとともに、同社がいかにお客さんに寄り添い、より良い商品開発を目指しているのかという点に、同社がいかにお客さんの心に刺さったようです。次のような感想が寄せられました。『湖池屋の歴史を知るとともに、同社がいかにお客さんに寄り添い、より良い商品開発を目指しているのかという点に、同社がいかにお客さんの心に刺さったようです。』

「特に印象に残っているのは、『競合との差異を示し、自社の特徴をしっかりと出す』という商品戦略のお話です。私たちも今、商品開発についてグループワークをしています。『特に印象に残っているのは、『競合との差異を示し、自社の特徴をしっかりと出す』という商品戦略のお話です。私たちも今、商品開発についてグループワークをしています。』

「特に印象に残っているのは、『競合との差異を示し、自社の特徴をしっかりと出す』という商品戦略のお話です。私たちも今、商品開発についてグループワークをしています。』

オリジナルクラフトビール 「ベルーメ」をお披露目

2024年10月10日、十文字学園女子大学内のフジショップにおいて、オリジナルクラフトビール『ベルーメ』のお披露目会が行われました。これは、食品開発学科・渡辺ゼミが新座市でクラフトビールを製造している株式会社システムアドバンス（新座市）と共同して企画・製造開発したもので、社会情報デザイン学科の松本ゼミがネーミング、川瀬ゼミがパッケージデザインで協力しました。試飲した人々からは「苦みが少なく飲みやすい」と好評で、生産された約700本があっという間に完売しました。



オリジナルクラフトビール「ベルーメ」

公開講座「平安朝の恋文

—書道と文学のコラボレーション—を開催

2024年9月14日に、書道家で本学の非常勤講師である鷹野理芳先生と本学の赤間恵都子名誉教授を講師に、公開講座「平安朝の恋文—書道と文学のコラボレーション—」を開催しました。この講座は、『源氏物語』をテーマとして物語に登場する姫君の筆跡の再現を続けてこられた鷹野先生と、平安女流文学を専門にする赤間先生のお二人の熱い思いにより実現したコラボレーション企画で、「恋文」をテーマに、それぞれのアプローチから「平安朝の恋文」を読み解いていただきました。また今回は、初めての試みとして、学内に鷹野先生の「書」を展示した特設ギャラリーを設置。参加者に身近で「書」に触れていただき、好評を得ることができました。



赤間恵都子名誉教授（左）と鷹野理芳先生（右）



公開講座会場前にも多数の作品を展示

食品開発学科が田中製茶園と 「あまりん紅茶」を共同開発

食品開発学科小林研究室と田中製茶園（入間市）が共同開発した「あまりん紅茶」が、2024年11月3日に開催された「喫茶来 TOKOROZAWA TEA FES 2024」（ところざわサクラタウン）で先行販売され、好評を博しました。この取り組みは、本庄市のいちご（あまりん）農家が規格外品の有効活用を本学に相談したことが始まりでした。学生は、狭山茶とのコラボレーションを考案し、「埼玉県産農産物をアピールする商品」を目指して開発に臨みました。試飲した人々からは「あまりんの甘味と香りを楽しめる上品な味わい」と好評で、今後はオンラインショップでの販売も予定しています。



曾矢麻理子助手（左）と参加した食品開発学科4年生

祝・プラスちゃん10歳の誕生日

十文字学園女子大学の公式マスコットキャラクターの「プラスちゃん」（2014年誕生）が、2024年10月10日に10歳の誕生日を迎えました。これを記念して立ち上げられたのが、学生によるプロジェクト「プラスちゃん10周年記念、ダンスでお祝い！ 10000人に踊ってもらおう！ プラスちゃんダンスプロジェクト」です。SNS等で多くの人に情報を発信してプラスちゃんダンスを踊ってもらおうと同時に、十文字学園のことをより知ってもらうことが目的です。10月27日の桐華祭でもプラスちゃんダンスを披露。子どもから高齢者の方まで幅広い年齢の方々に踊っていただきました。これからも、イベントへの参加やSNSの活用によって、さらにプロジェクトの幅を広げていくことを目指しています。



桐華祭のステージで披露されたプラスちゃんダンス

中・高バトン部が全国大会でともに銀賞獲得!

中・高バトン部は、2024年12月7日に幕張メッセで行われた第52回バトントワーリング全国大会において、ともに銀賞を受賞しました。

部員たちは、来年は全国大会の舞台で金賞をとれるように、そしてもっと素晴らしい演技を披露し、良い成績が残せるように、これからも精進することを誓っています。

第52回 バトントワーリング 全国大会



高校チーム

第52回 バトントワーリング 全国大会



中学チーム

園庭のうた 2024 幼稚園行事・イベント



遊びの達人、かないっちょと再会しました

「かないっちょ」とは、プレイワーカーとして活動している金井豊明さんのことです。

今回は年長さんと一緒に
大学のグラウンドへ!
到着すると木と木の間にロープが張ってありました。
でもまだ完成ではありません。
子どもたちの力でロープを引っ張ります!
「オーエス!オーエス!」の掛け声!
運動会の綱引きを思い出しました😓
かないっちょが仕上げをしてくれて
ロープの遊び場が完成しました!
かないっちょ どうもありがとう🎵



ビニールにお絵描き、楽しいなあ

ビニールに絵の具でいっぱい描いて遊んだよ!
紙に描くのとは違って、スルスル描けて
とっても楽しいんだ~💡
この日は、年少さんもたくさん来てくれたから
私たちは「絵の具やさん」になって遊んだよ😓
他にも筆やカップも洗って、大忙しだったんだ~
園庭でも、年少さん、すみれ組、き組、
みんな一緒に絵の具で遊べて楽しかったなあ!





土井善晴^{よし}先生^{はる}が副学長に就任



【土井善晴 副学長プロフィール】

大阪生まれ。
声屋大学産業教育学科卒業。スイス・フランスでフランス料理を学び、大阪味吉兆で料理修業。
料理研究家／おいしいもの研究所代表。
十文字学園女子大学副学長（食事学・料理学研究）。東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。甲子園大学客員教授。学習院女子大学講師。NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』（新潮文庫）は40万部を超えるベストセラー。『料理と利他』『味つけはせんでええんです』（ミシマ社）、『くらしのための料理学』（NHK出版）など著書多数。
映画『土を喰らう十二月』料理を担当／監修。
料理を楽しむにすきかけをつくったこと、また海外での和食文化講演活動などにより、2022年度「文化庁長官表彰」を受賞。

料理研究家で十文字学園女子大学（以下本学）の特別招聘教授である土井善晴先生が、2024年11月1日付けで本学の副学長（人を良く担当）に就任されました。

「人間は料理する動物である。人間は料理して人間になったのです。料理は人間創造の始まりであり、料理が理性、知性、感性、さらに人の気持ちを知る想像力を育みます。料理が人間の物質代謝を媒介することで、自然と共存し、持続可能な社会の実現につながる」と、土井先生は教えています。土井先生の教育・研究対象は「食」、その中でも特に「食の原点となる無償の行為としての料理」です。そして副学長就任にあたっては、料理から人間を考え、食を通して一人ひとりの希望ある未来の創造を目指されています。

食という字は「人を良くする」と書きますが、食には確かに、からだと心を健やかにし、人と人の和を強めて、「人を良く」する働きがあります。今後、学生・教職員、そして組織体・人間関係における「人を良く」に幅広く活躍し、次世代の人材を教え育み、また本学の「総合知」向上に貢献していただけることでしょう。

〈編集後記〉

1月18日のNHK番組「岐路に立つ東京大学〜日本発イノベーションへの挑戦〜」を視聴しました。バブル崩壊後「失われた30年」の停滞時に、アメリカでは新しい企業が続々と誕生してイノベーションを起こし、経済成長と新たな社会を生み出している。日本の若者にも様々な課題解決に向けて、起業を通して新たな可能性に挑戦してほしい……といった内容でした。

本誌で紹介した城宝薫さんも、まさしくイノベーションを起こした一人。飲食店の予約システムと社会貢献をつなげ、現在では海外からのツアー客を対象に料理教室や食体験ツアー等その領域を拡げています。また本誌で講演をいただいた湖池屋の佐藤章社長は、ブライドポテトの大ヒットにより同社の業績をV字回復させました。そして常識を乗り越えてチャレンジする野望や好奇心を持った若手に期待を寄せ、さらなる企業風土の改革に取り組んでいると話されました。

イノベーションが起こる背景には必ず社会や顧客の課題が存在します。本誌で紹介した十文字中学・高等学校の探究DAYでは「道なき道を進め！ 新たな価値観を切り開こう」をテーマに様々な課題への探究結果が発表されました。そこでは、生徒たちの自由な発想から導き出された成果に対して、企業や大学の審査員の方々からも大きな評価をいただくことができました。また、大学においても、食品開発学科のオリジナルクラブટビール「ベルメ」や「あまりん紅茶」に代表される企業との共同開発のように、地域や企業と連携した課題解決型の活動が盛んに行われています。本学園の生徒・学生が、このような学びの機会を通して諸課題に向き合い、イノベーションに必要な挑戦心や創造力等が育まれることを大いに期待したいと思えます。

（「立ちてかひある」発行編集担当者一同）

立ちてかひある Vol.9

令和7年3月31日発行

発行 十文字学園

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33 電話：03-3918-0511（代表）
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28 電話：048-477-0555（代表）

発行人 岡本英之（学校法人十文字学園 常務理事 法人本部長）
編集人 本間 修（十文字学園 十文字学園女子大学 事務局長）
和井田慎吾（十文字学園 十文字学園女子大学 広報部長）
鈴木 千尋（十文字学園 十文字中学・高等学校 入試広報部）
宮内 淳平（十文字学園 十文字学園女子大学 広報課）
監修 大西 正行（十文字学園 広報担当フェロー）
編集制作協力 ザ・ライトスタッフオフィス